

がん医療フォーラム2014

がん患者さんご家族を 地域で支える仕組みづくり

日時

2014年 **12月13日(土)** 13:00~16:00

参加費無料

会場

東京工科大学 蒲田キャンパス (東京都大田区西蒲田 5-23-22)
3号館地下1階大講義室(片柳記念ホール)

対象

がんの患者さんの療養支援について関心のある一般の方、がん患者さんのご家族、医療従事者、研究者、介護福祉関係者、行政担当者など

「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を目指してさまざまな取り組みが始まっています。がん患者さんの家族、医療関係者、周囲の支援者、研究者が一堂に会し、「がん患者さんが住み慣れた地域で過ごすことができる仕組みづくり」の実現に向けて、療養する患者さんご家族を支える情報の共有と連携の必要性について議論します。

プログラム

開催あいさつ

堀田 知光 (国立がん研究センター理事長・総長)

辻 哲夫 (正力厚生会 理事長)

第1部

基調講演

「地域で療養するがん患者さんご家族を支える情報とは」

「地域における緩和ケアと療養支援を支える情報づくり」

渡邊 清高 (帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授)

「在宅緩和ケアの現場から」

河原 正典 (爽秋会岡部医院)

休憩

第2部

フォーラム

「がん患者さんご家族を地域で支える仕組みづくり」

モデレーター：清水 哲郎 (東京大学死生学・応用倫理センター 特任教授)

田代 志門 (昭和大学研究推進室 講師)

シンポジスト：今野 まゆみ (ホームホスピス にじいろのいえ)

和泉 典子 (山形県鶴岡市立荘内病院 内科・緩和ケアチーム)

唐渡 敦也 (がん研究会有明病院 患者支援センター)

吉田 清久 (読売新聞 医療部長)

まとめ・閉会あいさつ 門田 守人 (がん研究会有明病院 院長)

共催：独立行政法人国立がん研究センター 公益財団法人がん研究会 東京大学死生学・応用倫理センター 帝京大学
後援：公益財団法人正力厚生会 厚生労働省 読売新聞社

このフォーラムは正力厚生会の助成金が活用されています。